熊本・天草紀行(その 1)

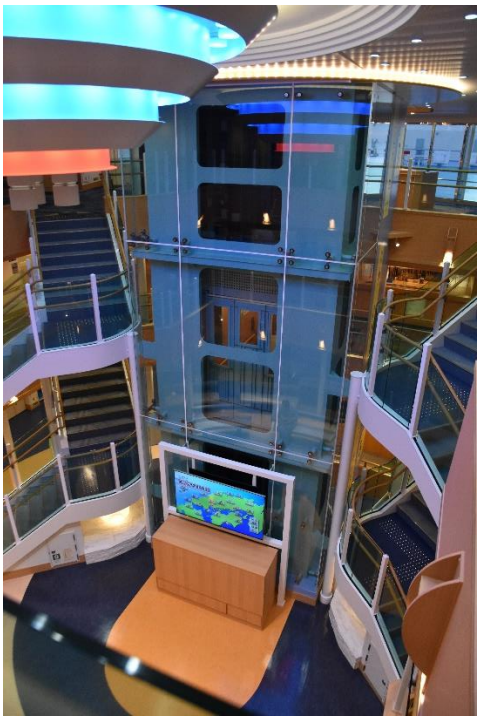
2020.12　池田良穂

12 月の初旬、有明海と天草の旅客船を追ってきました。九州への往復は長距離フェリーにすることにして、新造船の「やまと」への初乗船ができるようにスケジュールをたてました。行きは神戸から「せっつ」、帰りには新門司から同型姉妹船の「やまと」に乗船することとなり、熊本で 3 泊しました。今年 1 月に「やまと」の進水式を下関で見学しましたが、乗船する機会がありませんでした。一方、「せっつ」には、これが 3 度目の乗船となりました。

両船は乗用車甲板が旅客デッキと同じデッキにあるので、重い荷物を持って客室スペースまで上がる必要はないので、乗用車客には嬉しい配置です。船内も広々としており、スイートルームからシングル個室まで、TPO に合わせた様々な客室が用意されています。また展望浴室は、露天ぶろ付きで、巨大橋を見上げたり、月や星を眺めながらの入浴が楽しめたりと、充実した船旅が楽しめました。周りのお客からは、「きれいで、食事も美味しくていい船!!」との声が聞かれました。なんとなく褒められた気分でニンマリ。これで「せっつ」「やまと」姉妹には 4 回の乗船となりましたが、満足のできる船でした。ただ唯一気になったのが、展望浴室の床。あまり排水のための傾斜がついていないのか、洗い場からの石鹸の泡が床に広がってなかなか流れず、歩くと足について浴槽に入る前に必ず流さなくてはならないのです。また、ウィズコロナ時代のフェリーとしては、オープンデッキがもう少し楽しめる配置になっていれば思います。瀬戸内海汽船の「シーパセオ」姉妹のように。

往路　せっつ　神戸→新門司

神戸六甲アイランドのフェリーターミナルに着岸する「せっつ」。乗船日が金曜日だったため、出港は平日より遅い 20 時。新門司到着は 8 時半のスケジュールでした。



3 層吹き抜けのロビーにはシースルーエレベータがありました。色調が姉妹船の「やまと」とは違っています。

夕食はカフェテリア式で、すべての料理はコロナ対策でラップに包まれていました。

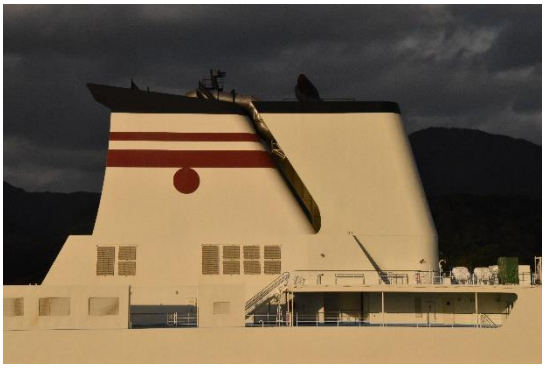
この日の夕食、しめさば、唐揚げ、豚汁!!

翌朝、船尾後方から朝日が昇りました。

後方には「フェリーきたきゅうしゅうⅡ」が続いていました。前回の九州旅行では、名門大洋フェリーに乗船して、前を行く阪九フェリーの船を見ましたので、ちょうど反対の光景でした。

新門司に先着していた「フェリーきょうとⅡ」が沖で停泊していました。

港内にはオーシャン東九フェリーの「フェリーりつりん」と阪九フェリーの「いずみ」が停泊していました。



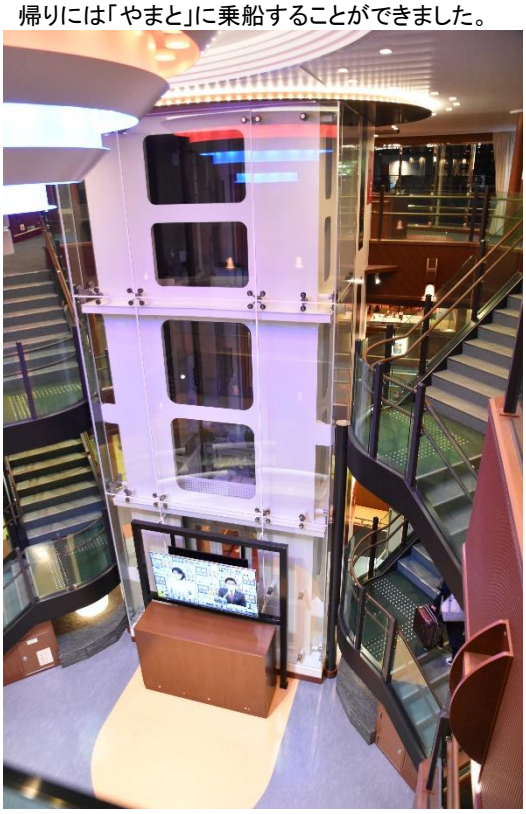
「いずみ」の煙突の前には、二酸化窒素を除去するスクラバーが取り付けられていました。

阪九フェリーの「いずみ」の全景です。同船は泉大津～新門司間に就航しています。

阪九フェリーの神戸航路用のターミナルビルです。

復路　「やまと」　新門司→神戸

帰りには「やまと」に乗船することができました。



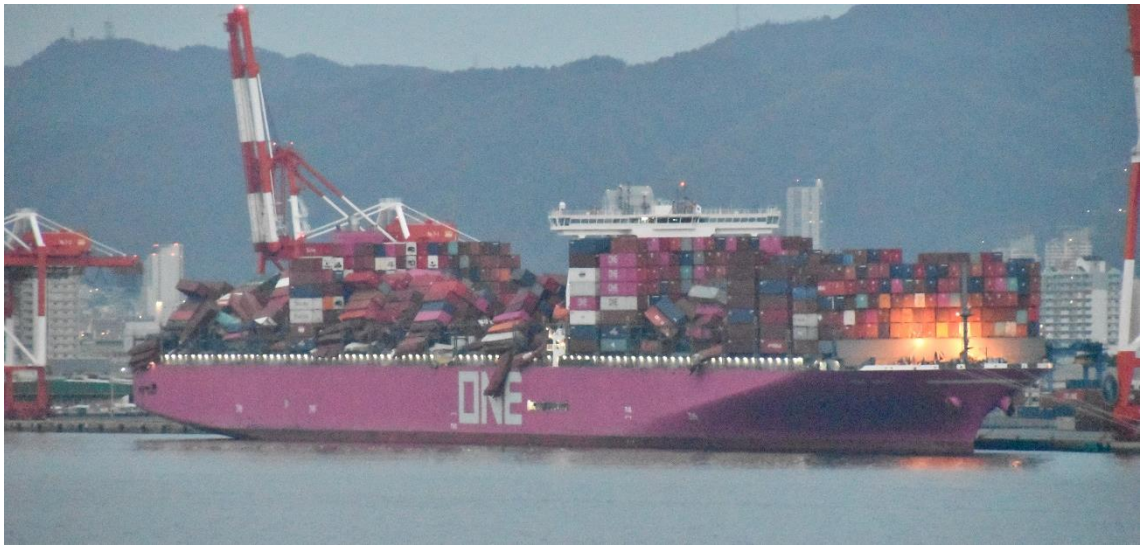
エレベーターホールの色彩が「せつ」とは違っています。

帰りの便では 2 室しかない「ロイヤルスイート」を押さえることができました。寝室と居間が別になっており、ベランダ、展望浴槽のある素晴らしい部屋でした。GOTO トラベルを使ったこともあり、車を乗せても、新幹線で九州に行くほどのリーズナブルな料金でした。

夕食は、阪九フェリーお勧めのステーキにしました。熱いステーキが鉄板で席まで届けられます。

向かい合わせの席にはすべてアクリルの飛沫防止ガードが設置されていました。テーブルには小型の消毒スプレーも置かれており、ウィルス対策は万全でした。

レストランの全景です。



船は朝 7 時前に神戸港に入り始めました。神戸・六甲アイランドのコンテナ埠頭に、太平洋上の嵐の中でコンテナの荷崩れを起こした、14000TEU 積みの巨大コンテナ船「ONE APUS」が停泊していました。横倒しになったコンテナが悲惨な状況になっています。パラメトリック横揺れに見舞われたのでしょうか。こんな大型船が、と思いますが、改めて自然の恐ろしさがわかりますね。

次回は、熊本でのシップウォッチングをご紹介します。